

【メモ】

平成30年

7/26木

14:00～17:00

全社協・灘尾ホール（新霞が関ビル内）

東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル

主催 法務省（再犯防止啓発月間関連行事）

後援 警察庁 総務省 文部科学省

厚生労働省 農林水産省

中小企業庁 国土交通省

日本経済団体連合会

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

全国農業協同組合中央会

全国農福連携推進協議会

平成30年度

再犯防止シンポジウム

一般就労と福祉との狭間にある者への就労支援

仕事に就いていない者の再犯率は仕事に就いている者の再犯率と比べて約3倍と高くなっており、不安定な就労が再犯リスクとなっています。そこで、本シンポジウムでは、犯罪をした者等の中でも特に就労の確保が難しい「一般就労と福祉の狭間にある者」に焦点を当てて、支援の現状や課題等について議論し、最新の知見を紹介いたします。最後までごゆっくりお聴きください。

プログラム

13:00 ● 開場・受付

14:00 ● 開会

14:10 ● 基調講演

「農福連携の取組のいま」

濱田 健司氏（一般社団法人 JA 共済総合研究所 主任研究員
全国農福連携推進協議会 会長）

14:40 ● 休憩

14:55 ● パネルディスカッション

「再犯防止と福祉的就労」

パネリスト 濱田 健司氏
中村 邦子氏（社会福祉法人 白鳩会 常務理事）
杉山 章子氏（ミュージックセキュリティーズ株式会社 取締役）
幸地 正樹氏（ケイスリー株式会社 代表取締役）
今福 章二（法務省大臣官房審議官）

コーディネーター 田中 里沙氏（事業構想大学院大学 学長）

17:00 ● 閉会

Twitterでも情報発信をしています！

法務省 @MOJ_HOUMU

法務省保護局 @MOJ_HOGO

法務省人権擁護局 @MOJ_JINKEN

MOJ 法務省
MINISTRY OF JUSTICE

「協力雇用主」
については
こちら

http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo02_00030.html



基調講演

「農福連携の取組のいま」



基調講演／パネリスト 濱田 健司 (はまだ けんじ) 氏
一般社団法人 J A 共済総合研究所 主任研究員
全国農福連携推進協議会 会長
(プロフィール)
障がい者・生活困窮者・高齢者等が地域の農林水産業及び商業・工業に従事することで地域を活性化していく「農福連携」や「農福連携+a連携」の取組についての研究等を行う。農林水産省・厚生労働省・都道府県等での講演、関係機関等への助言、TV出演等多数。

農福連携とは

現在、日本では高齢化と人口減少により、農林水産に携わる従事者が減少し、地域では耕作地放棄の問題や、技術継承・地域文化継承の担い手不足の問題を抱えています。

一方で、福祉では障がいをもつ方々の働く機会が求められています。

それぞれの課題を抱える「農」と「福祉」が連携することで「農」は担い手と技能・文化継承を、「福祉」は仕事と社会参画する機会を得ることができます。働く場としての農業と、働き手としての障がい者をつなぐこと。そこから多様性に富んだ共生型の地域コミュニティを生み出し、日本の食、経済、暮らしを元気にしていこうという取組です。

▶【参考】ノウフクPROJECT <http://nouhuku.jp/>

パネルディスカッション 「再犯防止と福祉的就労」



パネリスト 中村 邦子 (なかむら くにこ) 氏
社会福祉法人 白鳩会 常務理事
(プロフィール)
社会福祉法人として障がい者支援施設等を運営。農業組合法人根占生産組合と連携し、ソーシャル・ファームとして「花の木農場」を運営し、知的障がい者や精神障がい者とともに積極的に触法障がい者を受け入れるなど、地方創生と農業振興に寄与している。

ソーシャル・ファームとは

障がい者の働く場として、福祉制度に基づく「通所・入所授産施設、小規模作業所」と「企業」の2種類に加え、ヨーロッパでは、第3の分野として、ソーシャル・エンタープライズ(社会企業)があり、これは、社会的な目的をビジネス手法で行うものです。通常の賃金・労働条件で生産活動を行い、製品・サービスを市場で販売し、利益を事業に再投資する形で、社会的な目的を実現させます。

ソーシャル・ファーム(Social Firm)は、ソーシャル・エンタープライズの一つであり、障がい者や労働市場で不利な立場にある人々のために、仕事を生み出し、また支援付き雇用の機会を提供することに焦点を当てたビジネスです。

▶【参考】花の木農場 <http://hananokifirm.jp/component/content/frontpage.html>



パネリスト 杉山 章子 (すぎやま あきこ) 氏
ミュージックセキュリティーズ株式会社 取締役
(プロフィール)
地場産業や消えかねない技術などに注目し、投資家を募るファンドを運営する同社に2009年に入社。海外のマイクロファイナンスファンドや被災地応援ファンド等の担当を経て、2017年から顧客担当役員として取締役を務めている。

ファンドとは

ファンドとは、複数の投資家から集めた資金を、目的に沿った対象に投資し、配当や収益を分配する仕組みのことです。

事業主の方々が、誇り高くこだわった商品・サービスを生み出すために必要な資金と仲間を募集しており、投資家は、趣旨に賛同した事業を選んで出資することができます。出資に込めた投資家の思いが、社会の課題解決につながっていくことが期待されます。

▶【参考】「ファンドの仕組み」をYouTubeで見る <https://youtu.be/Jnebg8-BsUw>

パネリスト 幸地 正樹 (こうち まさき) 氏
ケイスリー株式会社 代表取締役
(プロフィール)

ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)に代表される成果連動型委託契約や社会的インパクト・マネジメントなど、成果向上に向けた手法の導入支援に特化したケイスリー株式会社を運営。再犯防止のほか、ヘルスケア及び文化芸術領域を中心とした各省庁等の実証事業に多数従事。



ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)とは

SIBとは、社会的利益と経済的利益双方の実現を目指す投資手法の一つで、行政とサービス提供者の成果連動型支払契約と民間資金の活用を組み合わせた官民連携手法です。サービス提供者のサービス提供費用について、民間資金提供者から資金調達を行い、行政と事前に合意した成果目標を達成できれば、後から行政が資金提供者へ成果に応じて報酬を支払うという仕組みです。世界初のSIBは、英国において、刑務所からの釈放者の「再犯率減少」を目的に実施されました。

▶【参考】ソーシャル・インパクト・ボンド https://youtu.be./cBcyqgAvX_E



コーディネーター 田中 里沙 (たなか りさ) 氏
事業構想大学院大学 学長
株式会社宣伝会議 取締役

(プロフィール)
広報・マーケティングの専門雑誌「宣伝会議」編集長、編集室長を歴任の後、新規事業、事業継承、地方創生の研究と人材育成を行う。事業構想大学院大学の教授を兼任し、2016年から学長に就任。2020エンブレム委員、伊勢志摩サミットロゴマーク選定委員等国や地域の各種委員、テレビ情報番組コメンテーター等も務める。